

放課後児童支援員キャリアアップ研修レポート

テーマ①発達障害児など配慮を必要とする子どもへの支援

【クラブ】（ あおぞらクラブ ）

【名前】（ 花田 幸奈 ）

今回私が選択したテーマの発達障害については、大学時代に専門的に学んできた分野ではありませんでしたが、大学卒業後、まだ数年経たずして、診断名や基準の変更がされていることを知り、大変驚きました。「障害」という言葉だけを聞くと、少し重たいイメージが先行してしまいましたが、講師の先生のお話の中で「障害を発達特性ととらえる」というキーワードは私の中ですごく印象に残っています。今日行ったセルフチェック(大人用)の項目を見ると、誰にでも1つ、2つ当てはまりそうな項目が並んでいました。もちろん、自分に当てはまったものもあります。そこで私が感じたことは、「障害があるかないか」という線引きよりも、一人ひとりの発達特性に合わせた声かけや手助けの方法を考えていきたいなと感じました。子どもたちが困っている場面で、「どんな場面でいつも困っているのだろう?」「どんな声かけや手助けをしたらその子にとって安心するのだろう?」一人ひとりの子どもの気持ちを大切にしながら一緒に寄り添っていける指導員でありたいと思います。

後半は、講師の先生が保育園で実際に体験した事例を用いてグループワークを行いました。発達障害のある子ども(Bくん)の気持ちを皆で想像しながら検討していきましたが、もちろんBくんの発達特性から見てとれる発達課題もたくさんあったように思いましたが、私がこの事例検討でより感じたことは、保育者と子どもとの関係の大切さです。子どもたちと日々関係を築いていくことで、子どもたちが自分の思いを話してくれたり、指導員はそれに気づくことができるのだと思います。グループワークに参加することで自分1人では気づくことのできないBくんの気持ちを考えることができたり、様々な視点から考えることができ、とても有意義な時間となりました。

学童保育の現場でも、多くの指導員さんの意見を聞き、子どもたちのためにできることを考え実践していきたいです。